

【各委員からの意見等】

議題（１）の説明…小野健康生活支援課長

「健康生活支援業務（感染症・生活衛生）における保健所の取組について」

*委員からの意見等

[宮川太 委員] (公務による途中退席予定のため、議題（１）に限らず先に発言)

特に意見はないが、委員の立場からのお願い。この後の議題でそのような話も出るかもしれないが、有事の際に、地域の皆様と連携するためには保健所がパイプとなる部分が必要と思うのでよろしく願います。

議題（２）の説明…米谷地域保健福祉課長

「地域・職域連携推進事業（生活習慣病予防・メンタルヘルス対策）及び精神保健福祉への取組について」

*委員からの意見等

特になし

議題（３）の説明…橋本副センター長

「薬物乱用防止啓発活動への取組について」

*委員からの意見等

[高橋秀典 委員]

説明のあった平成30年からの大麻による検挙人数は全国のものか県内のものか。

現代ではSNSの利用等、入手経路が複雑かつ巧妙になっている。警察に確認すべき内容かもしれないが、この地域での入手経路等の特性があれば教えてほしい。

[事務局 橋本副センター長]

検挙人数は全国のものである。警察白書から引用している。

入手経路の特性については警察でなければわからない内容であるため、保健所で詳細は把握していない。恐らくSNSを利用したものではないかと思うが、正確な回答はわからない。

[越川信一 会長]

海匝管内についても、件数は増加傾向ということでよいか。

[事務局 橋本副センター長]

全体的にそのような傾向があると思われる。

[高橋秀典 委員]

もし可能であれば、警察から地域特性がわかるような資料が入手できれば提供してほしい。

ポケットティッシュ等の配布といった啓発活動について、大麻等に手を出してしまう子に響くかどうかについては疑問に思う。

そのため、全県で行うべき内容だが、実態を把握し地域の現状に合わせた活動をお願いしたい。

[事務局 橋本副センター長]

資料については確認する。

御意見ありがとうございます。

議題（４）の説明…橋本副センター長

「災害医療体制構築への取組について」

*委員からの意見等

特になし

議題（５）その他…各委員からの協議会全体に対する意見・感想等

[吉田象二 委員]

新型コロナウイルス感染症の流行時においては、井元センター長とは香取健康福祉センター勤務の時から共に対処にあたってきた。当協議会のような連携会議は地域医療に効果があることがわかってきている。現在では香取海匝地区感染症災害等連携会議として、新型コロナウイルス感染症の５類移行後最初の会議が行われ、今まで新型コロナウイルス感染症対応で培われた連携が役に立っている。

もう一つの課題として、海匝地域の医療連携をどうするかという地域医療連携構想会議、調整会議が行われている。医療全体や病診連携に対してこの地域でうまくシステムが作れたのありがたいと思っている。

当院は地域の基幹病院となっているため、できる範囲で役に立とうと考えて

いるが、引き続きこの体制を深めていけたら良いと思っている。

[平山新治 委員]

先ほどの高橋委員からの質問に付け加えて伺いたい。現在保護司という立場で大麻所持、使用者と関わっている。その中で、説明資料では若年層の増加と説明があったが、加えて女性、特に主婦層への浸透があると感じている。管内の状況についてそのような知見等があれば知りたい。

事業年報について主要死因別死亡状況に書かれている「異」は異常死ということでしょうか、またその中に自殺者は含まれるか。

[事務局]

確認し後ほど回答する。

[伊藤晋久 委員]

地域の健康課題への取組として報告された、やさ・しー・い食の応援店について、栄養士会でも減塩、高血圧、糖尿病への健康課題にどのようにアプローチするかは関心が高い内容であり、栄養士会も連携してどのように活動できるか検討する上での参考にしたい。

[齊藤香苗 委員]

学校では今まで主に感染症でお世話になっていたが、その他幅広い業務内容について知ることができた。

薬物乱用防止啓発運動については、小中学校でも取組をしており、教育委員会から調査も来ている。大麻事犯が増えている現状を考えると、子供たちに伝えられる良い取組があれば情報が欲しい。養護教諭会内でも相談してみる。

[事務局]

御意見含め、検討する。

[山田紀美代 委員]

銚子市でも新型コロナウイルス感染症の予防接種をはじめ、感染症対策で保健所のお世話になっている。予防接種についても銚子市医師会にも協力いただいて何とか実施できた。海匝地域では新型コロナウイルス感染症が終息したわけではないが、それに加えて全国的に見てもインフルエンザが増えていると感じる。感染対策をする上で、保健所との情報連携、情報共有をお願いしたい。

[小林賢士 委員]

新型コロナウイルス感染症について、最初期のころ、歯科医師の感染リスクが高いといった内容の報道がされていたが、この数年間を見ていて、診療により感染した事例をほとんど見ることがなかった。この理由について、国等で調べてもらえるとありがたい。

[事務局 井元センター長]

現時点で特にデータは持ち合わせていない。参考になる情報があればお伝えする。

[佐野明子 委員]

新型コロナウイルス感染症流行時には、新型コロナ検査キットが不足するなどの苦労があった。現在、それについては落ち着いてきたが、今度はインフルエンザの流行により、インフルエンザ検査キットの不足を懸念している。

やさ・しー・い食の応援店の説明があったが、最近、健康に対する意識の高い患者も多く、質問を受けることがある。私の勤務施設では管理栄養士と連携して患者への助言をしている。そのため、やさ・しー・い食の応援店の活動がより地域の方へ知れ渡るのがよいことであると思う。

[篠塚信子 委員]

新型コロナウイルス感染症に関する連絡会議では情報共有いただき頼りにしていた。現在は感染症、災害等の連絡会議を行っているとの話であったが、今後もしよろしく願います。

結核について、外国人の感染者が多いという話であったが、外国人の予防や対策等に問題があるのか。

[事務局 井元センター長]

結核患者について、現在一番多いのは高齢者。その次に若い人であれば外国人がほとんどである。外国人の結核について問題となっているのは、予防というよりは早期発見が難しいことである。周りの人がすぐに気付けなければ、長期間医療機関を受診しない事態になることが多い。保険証がない方がいるもの問題である。そのため、今回は受入れ団体に対して呼びかけ、健康管理をお願いした。

また、講習会では、講師から、患者との意思の疎通のため、通訳が大事であると力説があった。機械翻訳では、医療分野における翻訳が不正確であることから、まだ人による翻訳が必要である。これらが外国人結核患者への課題であると考えている。

[越川信一 会長]

銚子市でも、技能実習生を中心に2,500人程度の外国人の方がいる。医療機関へのつなぎ方、通訳等の課題を感じており、しっかりと対応していきたいと考えている。

[石上正毅 委員]

地域の方の相談について、専門の行政機関、医療機関等の関連機関へ紹介をしているが、海匝健康福祉センターの名称について、海匝「健康福祉」センターであったり、八日市場「地域保健」センターであったり、また、海匝「保健所」という名称であったり、わかりにくさを感じている。例えば精神疾患に係る相談について、どこに連絡すればよいのかなどを悩むことがある。

現在の名称について、複雑な名称が入り混じっているのは、今後大きな組織改編のようなものが計画されていて、その過程の一部であったりするか。もしそうであれば、どのようにわかりやすい名称や組織の再編を考えているか教えてほしい。

[事務局 井元センター長]

名称として、一番わかりやすいものは「保健所」である。そのため海匝保健所という名称を使用しているが、保健サービス及び福祉サービスについても行っていることから「健康福祉センター」という名称にもなっている。

海匝健康福祉センターと八日市場地域保健センターに分かれていることについては、地域で分けているものであるが、どちらに連絡しても案内はできるため、銚子市の方であれば海匝健康福祉センターに、旭市、匝瑳市の方であれば八日市場地域保健センターに連絡いただければよい。同じ組織であるので、連絡があれば担当に繋ぐので、まずは御連絡ください。

[石上正毅 委員]

取り扱うサービスの内容がわかりやすくなるようなもの、例えば「高齢者のことなら」という文言の追加やイラストによる案内の追加のようなものがあるとよいかと思う。

[事務局 井元センター長]

その内容のものであれば、市役所にはあるのではないかと思われる。便利なものがあれば保健所でも利用を考える。個々のサービスについては市役所に担当がいるため、保健所で連絡を受け、市役所と共に実施したほうがよい内容であれ

ば連携して対応する。

[越川信一 会長]

市役所でも体制は整えていきたいと考えている。

[五十嵐康恵 委員]

多頭飼育の届出はいつ頃から始められた制度か。

地域に猫を10匹程度飼育している者がいたと思うが、届出をしないことによる罰則等はあるのか。

届出を要するものが届出していないことを探知した場合、届出を促すのがよいか。

[事務局 小野課長]

手元に資料がないため正確ではないかもしれないが、概ね平成30年頃に多頭飼育の届出制度ができ、委員の皆様には資料として配付したリーフレットが作成された。まだ十分浸透していないかもしれない。

罰則としては過料になる可能性はあるが、それ自体は大きな罰ではない。千葉県としての目的としては、多頭飼育が崩壊する前に必要な処置をするための指導を行うこと。

届出をしていないことを探知した場合には、保健所に情報提供いただければ保健所で対応、指導する。

[兒玉晃昌 副会長]

銚子市医師会としては、吉田象二委員からもあったように、旭中央病院主催の各会議に出席している。

感染症に関しては、定点報告とは別に、銚子市医師会員の医療機関の協力により、銚子市内で発生した新型コロナウイルス感染症等の件数を集計し、参考としている。先週では新型コロナウイルス感染症の発生は二桁まで落ち着いている。インフルエンザはまだ多く、一週間で100人台の発生があった。

そのこともあり、インフルエンザについては特に小児のワクチン接種が混雑している。

[高橋秀典 委員]

県へのお願いだが、香取海匝地区感染症、災害等ネットワークについて、今後の災害に対して素晴らしいものができたと思う。旭中央病院がリーダーシップを発揮した結果の中でできたものと思う。地域によって状況は違うと思うが、

これらについて管内を超えて情報提供し、県下全域に広めてほしい。

[事務局 井元センター長]

本日欠席した委員からも御意見をいただいたので紹介する。

福島俊之委員から、Webで実施した連携会議が有意義であったということ、保健所の機能が一時的に非常に低下していたため、そのようなことが無いように配慮してほしい、特に異動の時期の引継ぎにその印象があると御意見いただいた。

その節は大変御迷惑をおかけしました。

安藤智子委員から、資料についてポイントが特記されているのがわかりやすかったこと、具体的な数字が明記されていない活動報告があるため実績を入れてほしいこと、事業年報の実績だけでなく保健所全体の取組についてPDCAで分かるの良いといった御意見をいただいた。

資料の実績については今後気を付けます。記載がないものの具体例として鳥インフルエンザの抗原検査キットによるスクリーニングを挙げていただいたが実績は0件でした。PDCAについては、それで表現できる事業もあるが、評価しにくい事業もあるため内部で検討します。

[事務局 小川副センター長]

平山新治委員から質問があった、事業年報の主要死因別死亡状況に書かれている「異」については、その他の症状、異常所見等他に分類されないものを示す表記である。自殺については持ち帰り確認する。